

令和4年度 2学期始業式 校長講話

令和4年（2022年）8月23日

皆さん、おはようございます。

夏休みはいかがでしたか。まとまった時間を有意義に過ごすことができましたか。休み中、1年生数人の新聞への投稿記事を読みましたが、平和についてそれぞれに考えていて感心しました。また、インターハイ出場の皆さん、お疲れ様でした。全国での競技はどうでしたでしょうか。コンクール参加のウインドアンサンブル、合唱の皆さんも、多くの学びがあったと思います。経験を今後に活かして欲しいと思います。その他にも自分の興味関心の幅を広げることができましたか？

さて、2学期は3年生に限らず1・2年生も来年度の科目選択や生徒会選挙など、自分の進路そして今後の高校生活をどう送るか、じっくり考える学期です。

私がかつて高校3年生の担任だった時、生徒たちがポツリポツリとやってきて「先生、幸せな人生ってどういう状態ですか」、「何をもって成功したというのですか」、「プライドが高いことは悪いことですか」と聞いてきました。この3つは今でもとても印象に残っています。

最近、この目に見えない「幸せ」を数値化する研究がされています。

国連の世界幸福度ランキングでは、日本は146か国中54位、G7では最下位です。日本は幸せを感じる主観要因のうち、「自己決定感」と「寛容さ」が特に低い数値になっています。

神戸大学と同志社大学の研究でも、所得や学歴よりも「自己決定」が幸福感に大きな影響を与えるといっています。ハーバード大学の研究では、幸福度に最も影響を与えるのは「温かな人間関係である」と結論づけています。

「幸福」は個人や文化によって違いがあり、しかも主観的なものなので、これらの研究が幸福度のすべてを表しているとは言えないまでも、今を生きる私たちにとって「幸せ」を感じるには、自分で人生を決められる、そしてそれを温かく見守り、尊重してもらえる寛容さが必要であるといった示唆を与えてくれます。

人生は選択の連続です。人生を自己決定することが「幸せ」に繋がるのであれば、多くのアドバイスを参考にしながらも、その答えを「外に求める」のではなく、「自分に求めること」が大事です。そのためにとことん自分と向き合い、自分と対話をする必要があります。

たとえ後になって「ああすればよかった」と思うことがあっても、その時々、自分が精一杯迷い悩み苦しんで出した答えはとても尊く、きっと自分の軌跡として納得できるものになるはずです。

そして、幸福は誰もが願うものです。幸福度に影響を与える「温かな人間関係」とは、自分と意見が異なる人たちの考えを聞き、どれだけ理解を示すことができるかという「寛容さ」です。多様性の時代では、人によって求める幸せの形は異なるので、自分のことだけを考えているだけでは幸福は長続きしないでしょう。

「自分にとって大切なものは何か」、「どんなときに幸せを感じるのか」を友達や家族と対話することで伝え合い、共有すること。それによって、人によって違う幸せを理解し認め合う中で、「自分の幸せ」だけでなく、「自分たちの幸せ」を求めることが、よりよい社会を築くことに繋がります。

私が生徒に問われた「幸せな人生とは何か」「成功とは何か」「ブライドとは何か」。皆さんはどう考えますか。

あなたらしい人生を歩むために、一人になってじっくり自分の思いや考えと向き合い、自分自身と対話し続けること。そして自分以外の人との対話を通じて、様々な人が生きる社会の中で自分はどう生きていくのか、そんなことを考える2学期にして欲しいと思いますし、どんな自分も否定せず、あなたらしさ、あなたのもつ能力を、あなた自身が大事に育てて欲しいと思います。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。現在長野県はレベル6で、医療非常事態宣言が発出されています。換気、消毒、昼食や飲食時の会話を控えるなど、基本的な感染予防の徹底をお願いします。特に暑さが続き、エアコンを使う機会もありますが、必ず換気をして感染予防に努めてください。

また2学期も、みんなでつくる中野西高校、そして、皆さんらしい活躍を期待しています。